

不在時の電話を覚えてくれない…

⇒周りの家族が問題に対する工夫をしましょう

【 認知症の人の状態 】

とよさと病院 認知症疾患医療センター

2022.6作成

認知症の人の最も基本的な症状は、記憶障害です。

この場合、電話を受けて受話器を置いたとたんに、電話がかかってきたこと自体を忘れてしまっているのです。忘れたということにも気づいていません。ですから、問い詰められても認めようがないのです。このような状態は、認知症の特徴なので、まわりや家族の人が問題に対する対応を工夫することが必要です。

【 対応方法 】

- ①電話をかけてくる人に事情を話し、携帯電話に連絡いただくよう依頼しましょう。携帯電話を持っていない人は、事情を先方に話して、認知症の人が電話に出たときは、再度ご連絡をいただくよう伝えておきましょう。
- ②電話の着信も発信も、すべての通話内容を自動で録音する“フル録音”機能付きの電話器があります。必要を感じる人は、店頭、インターネットなどで探してみてください。
- ③認知症の人でも、電話が鳴れば、対応しようとするのは当然のことです。「電話に出ないように」と言うのではなく、電話に出たときは、カレンダーやメモに記す習慣をつけるように話して、実際にやってみてもらいましょう。習慣になる人もいます。
- ④電話に出ないようにしてもらいたい場合は、電話がかかってきたときの音を低くして聞こえないようにする、電源を抜いておくという方法もあります。

参考文献：杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P62-63

ケアのコツ…本人の言葉に耳を傾ける



わたしたちは根深いところで、本人の言うことはあてにできないと捉えていたりします。そのため、本人からすると自分の言うことに、耳を傾けてくれないという体験が少なくないのではないかと推測されます。認知症がある—ただそれだけのことで、まるで気持ちや考えがない人のように扱われるとしたら、これほど悲しいことはありません。

言葉には、その人の思いや考えが凝縮されています。仮に、正しくないことや、言われたくないことを言っていたとしても、本人がその言葉（表現）で伝えてきた背景に目を向けてみると、さまざまなサインの表れであると気づくようになります。

参考文献：ベホス, “理由を探る” 認知症ケア, 株式会社メディカル・パブリケーションズ, 2014, P164-166